

妻と夫がけんかした話

1957
作品ナンバー0011

文部省選定

この作品には、大勢の人たちの選挙にたいする不満や明るい選挙を実現しようという願いがこめられている。シナリオができるまでには、各地の婦人会の幹部の人たち、坂西志保さん、市川房枝さん、あるいは日本青年団協議会の若い人たち、自治庁、公明選挙連盟の人たちの意見も聞いて作ったと、リーフレットの前書きにある。



あわただしく解散された国会——山に囲まれた静かな村にも候補者のトラックが入りこんできた。お浜の夫、松三は朝から馬川の旦那の票集めに懸命だ。お浜は、山の畑でこの前の選挙を思い出していた。3年前、お浜の息子一郎が嫁をもらってまもなくの頃、村は村会議員の選挙で沸き立っていた。何もかもを順番できめることが村の平和だと思っているおやじたちにたいして、若者たちは立派な政策を持つ人が必ずしも当選できない現実を嘆いていた。そして投票の日。開票の結果、予想した候補者の亀吉が1票差で落選し、その疑いが他村から嫁いできたお浜の嫁の正子にかけられた。確かめるお浜に正子の答えは、夫の一郎がほめていた別の候補者に投票したという。選挙は自由だという一郎と、世間や親に背くことは許されないとする松三は対立した。だが正子をかばう一郎も亀吉に入れてしまったことを恥じ、正子に謝るのだった。そんな2人を若者たちは励ました。

その頃、松三は村の有力者の宴会で馬川に犬馬の労を誓っていた。お浜は村の噂や、夫と息子の板挟みでしょげかえていた。そこへ婦人会の会長が迎えに来た。お浜の悩みを聞いて、婦人会の人たちは選挙について話し合った。松三は、山から戻ってきたお浜に票集めに実家へ行くようにいうが、お浜も野良から帰ってきた一郎も選挙は自分の考えで入れるからときっぱり断った。

劇
35ミリ
白黒／34分

- 企画
都道府県選挙管理委員会連合会
- 後援
自治庁選挙部
- 推薦
公明選挙連盟
- 撮影協力
長野県東筑摩郡筑摩地村

スタッフ

- 製作
村山英治
鈴木寿二郎
- 演出
野村企峰
- 脚本
鮎沢美子
野村企峰
吉田 功
- 撮影
高山 弥
- 照明
田中光五郎
- 美術
平田逸郎
- 録音
大橋鉄也
- 音楽
渋谷 修
- 編集
河野秋和
- 製作主任
久保治男

- 出演
お浜さん：戸田春子
夫松三： 神田正夫
他